

## 平成23年 LCA国際小学校 学校自己評価

学校教育目標	重点目標(中・長期目標)	総合評価					
◆社会の一員として個性を生かして、社会に貢献できる人間の育成 ◆世界を舞台に活躍できる人間の育成 ◆生きることの素晴らしさを知った人間の育成	教育理念を具現化した学校づくり	外国人教師、スタッフも含め、教育理念は浸透したと思われる。今後はその理念を日常の授業や児童指導にどう生かすかである。					
	今年度の重点目標	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
	卒業生に対して適切な進路指導をする。	私立中学進学を希望する児童が多かったが、塾に通わず私立中学に合格するという目標が達成できた。	○				小学校でつけた英語力を活かして進学できる学校を、より多く見つけて進学させたい。
	教師スタッフがLCAの教育理念を理解し、児童指導に当たる	3年間掲げた目標であるが、今年で達成することができたと考えられる。	○				

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	教育課程	学習指導要領に準じながら英語力を伸ばすカリキュラム作り	各教科、文科省の基準の授業数を確保しながら、英語力を伸ばせたか。また、総授業数が多いことに問題はなかったか。	高学年の1日8時間目までの授業も定着してきた。今後はより高いレベルの英語力を求め、英語の指導法を改善する。	○				より一層の英語力をつけられるよう、指導法や教材を開発する。
		英語で指導する教科があっても、国語力や日本の文化の習得がきちんとできているか。	国語の授業数は国語力を伸ばすのに十分なだけ確保できているか。また、国語の力はどうか。	教科書以外の優れた文章に多く触れることで、国語力を伸ばすことができた。より高い国語力をつけるには低学年からの読書量を増やす必要があると思われる。	○				図書室の蔵書数を増やし、低学年から日本語の本の読書量を増やす。学校として作文コンテストを開催し、作文を書く機会を増やす。
	学習指導	クラスの全員が感じたことや意見を言える授業「なぜ」と考える授業づくり	恥ずかしかったり、間違えを恐れて意見を言えない子がいなかったか 児童がなぜと考える機会が多い授業展開ができたか	平均的によどのクラスでも積極的な発言を求める傾向がある。まだ全員とまでは言えない部分があるので、全員が自分の考えを言えるよう指導することが望まれる。	○				エンリッチメントタイムという個別に対応できる時間を利用し、苦手意識のある児童にも力をつけさせたい。
		全学年を通して「きちんと書く」指導の徹底	ノートやテスト提出物の書き方は適切であったか	算数で間違えた問題をノートに残し、繰り返し学習するためのリビノートを考案し、成果をおさめた。その他のノート指導もかなり良くできている。	○				LCAではオリジナルのノートを開発し、指導が効果的にできるようにしているが、学年に合ったきめ細かい対応ができるようにする。
	児童指導	「自分の気持ちを、相手にきちんと伝える。相手の気持ちを受け取れる。」ことを大切に児童指導	児童が学校で起きたトラブルなどで、気持ちが曇ったまま帰宅することが無いよう取り組めたか、また、家庭との連絡やその後のフォローは適切にできたか	家庭でも同じように考えていただける場合には大変良い結果が得られた。	○				保護者に対して、児童が自ら解決に向けて行動することの大切さを繰り返し訴える。
学校運営	地域連携の連	地域と連携し、社会科見学を実施する。また、実際的な話を聞くために、地元の方を講師として招く	地域の方との連携で効果的な指導ができたか	以前は登下校の際の車の駐車場で近隣に迷惑をかけることがあったが、駐車場を借りることができ、改善された。その他の点では、校内のことへの意識が向き、地域が後回しになっている実態が改善されていない。			○		イベントに地域の方を招くことなどを年間計画に取り入れる。
	研修	LCAの教育理念を理解するための研修 新しい学力観に基づいた授業の研修 自立した子を育てるための野外活動研修	研修は適切に行われたか、また、効果はあったのか	特に英語指導法について研修の成果が表れた。新任の教師を先輩教師が指導する場面が多くみられるようになった。教師の力量は確実にアップした。			○		指導的役割を果たせる教師を増やし、研修の時間を増やす。